

# 4D Backup<sup>®</sup>

追加 / 修正情報

Windows<sup>®</sup> and Mac<sup>™</sup> OS版



4D Backup

by

Simil Guetta

## 注意

このソフトウェアの使用に際し、本製品に同梱のLicense Agreement（使用許諾契約書）に同意する必要があります。ソフトウェアを使用する前に、License Agreementを注意深くお読みください。

このマニュアルに記載されている事項は、将来予告なしに変更されることがあり、いかなる変更に関してもACI SAおよびACI USは一切の責任を負いかねます。このマニュアルで説明されるソフトウェアは、本製品に同梱のLicense Agreement（使用許諾契約書）のもとでのみ使用することができます。ソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を、ライセンス保持者がこの契約条件を許諾した上での個人使用目的以外に、いかなる目的であれ、電子的、機械的、またどのような形であっても、無断で複製、配布することはできません。

© ACI SA / ACI US 1985 - 1997; All rights reserved

© 4D Backup 1994 - 1997 ACI SA. All rights reserved.

Author: Simil Guetta

ACI®、4D®、4<sup>th</sup> Dimension®、4D Runtime®、4D Server™、4D Calc®、4D Insider™、4Dロゴ、4<sup>th</sup> Dimensionロゴ、ACI SAの登録商標または商標です。

Microsoft®とWindows®はMicrosoft Corporation社の登録商標です。

Apple®、Macintosh®、Power Macintosh™、LaserWriter®、Image Writer®、QuickTime®はApple Computer Inc.の登録商標または商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

# 4D Backup 1.5 追加修正情報

MacOS™ and Windows® 版

## はじめに

---

4D Backupバージョン1.5によろこそ！

この追加修正情報は、バージョン1.2からプログラムに追加された新機能および補強された機能について記述したものです。このドキュメントを上手に活用できるように、本文の欄外に機能が追加された時点のバージョン番号を示しています。

## マルチプラットフォーム機能

ここでは、特にマルチプラットフォームでの 4D Backup文書の取り扱い方法について説明します。

- 4<sup>th</sup> Dimensionとの互換性
- モジュールのインストール
- 4D Backup文書のマルチプラットフォームでの取り扱い
- 4D Backupによって作成されるファイル
- 異種環境における論理ミラー
- 「ゾーン」メニューの削除
- ミラーマシンを含むネットワークコンポーネントの選択

## 新機能

ここでは、4D Backupに新しく追加された機能について説明します。

- 「環境設定」ダイアログボックス
- バックアップスケジューラー
- ログファイルの書き出し
- 「確認」チェックボックス
- その他の情報
- 4D BackupとCustomizer Plus

## ランゲージ

- バージョン1.5で廃止されたコマンド
- 修正されたシンタックス

## 1.5 マルチプラットフォーム機能

---

### 4<sup>th</sup> Dimensionとの互換性

次の表は、4D Backup 1.5が動作するために最低限必要となるMacOSおよびWindows版の4D環境のバージョンを示したものです。

	MacOS版	Windows版
4 <sup>th</sup> Dimension (シングルユーザ)	3.5.1	3.5.2
4D Server	1.5.1	3.5.2

### 1.5 モジュールのインストール方法

バージョン1.5から、アプリケーションフォルダの中にモジュールをコピーするだけで使用している4D環境にそのモジュールをインストールすることができるようになりました。Macintosh上では、「Mac4DX」フォルダ、Windowsでは「Win4DX」フォルダの中にモジュールをコピーします。

インストール方法の詳細は、「4D Backupインストールガイド」を参照してください。

注：ACI製のモジュールは、Proc.Extファイルにインストールしなくなりました。

### 1.5 4D Backup文書のマルチプラットフォームでの取り扱い

4<sup>th</sup> Dimensionや4D Serverと同じように4D Backupもマルチプラットフォームに対応したプログラムです。そのおかげで、4D Backupで作成されたバックアップや文書はそれが作成されたシステムが何であろうと関係なく、両方のプラットフォームで使用することができます。また、MacOSの下で作成されたフルバックアップは何も変更することなくWindows上で復元することができます。また、この逆の同じです。

同様に、Windows上で作成されたログファイルをMacintosh版の4D Backupを使ってデータベースに統合することができます。これを行うには、(4Dに付属している)4D Transporterユーティリティを使って、そのログファイルの内部フォーマットをMacintoshプラットフォームに適用させる必要があります。

注：4D Transporterに関する詳細は、Macintosh版では「ユーティリティガイド」オンラインドキュメント、Windows版では「Addendum.hlp」オンラインヘルプを参照してください。

## 1.5 4D Backupによって作成されるファイル

次の表は、MacOSとWindows上での4D Backup文書のファイル同義語を示したものです。

4D Backup文書	MacOS	Windows (*)
フルバックアップファイル	MyBase[1]	MYBAS001.BK + MYBAS001.4BR
バックアッププロジェクト (デフォルト)	バックアッププロジェクト	BACKUP.4BP
ミラープロジェクト(デフォルト)	ミラープロジェクト	MIRROR.4BP
バックアップジャーナル	バックアップジャーナル	JOURNAL.TXT
バックアップジャーナルアーカイブ	バックアップジャーナル1	JOURNAL1.TXT
ログファイル	MyBase.data.log	MYBASE.4DL
バックアップログファイル	MyBase.data.log[2 to 3]	MYBAS003.4BL
バックアップログファイル (2つのフルバックアップ間)	MyBase.data.log[2 to 3]-a	MBS003-a.4BL
復元ファイルの保存先	MyBase <i>f</i>	MYBASE.RST
ミラーデータベースバックアップフォルダ	MyBase <i>•</i>	MYBASE.MIR
ログファイル(ミラー内に統合される際 の各ステップ時における名前)	MyBase.data.log.2 送信ログ ログ受信 ログ分析 ログ統合 ミラーログ	MYBASE.4L2 SENDING.4DL RECEIVE.4DL ANALYZE.4DL RESTORE.4DL MIRROR.4DL

(\*) もし、データベース名がWindows3.1の8バイト制約に違反した場合、そのデータベースの名前はまず母音を削除し、場合によっては後ろの文字を切り取ります。

## 1.5 異種環境における論理ミラー

4D Backupは、通信にネットワークコンポーネントを使用します。そして異種環境内でユーザのシステムを定義するためのさまざまな方法を提供します。データベースマシンとミラーマシンは、お互いネットワークで接続されていなければなりません。ユーザは、ADSP、TCP、IPX、4D Remote、Open Transport等のACIネットワークコンポーネントのすべてを使用することができます。

注：バージョン1.5以前の4D Backupを使用するには、ネットワークコンポーネントを置き換える必要があるかもしれません。

ソフトウェアの適切なバージョンを使用している限り、プラットフォームのすべての組み合わせが可能です。次の表は、その組み合わせを一覧にしたものです。

	データベースマシン		ミラーマシン
Macintoshまたは Power Macintosh	4D/4D Server MacOS + 4D Backup MacOS		4D Backup MacOS
PC Windows	4D/4D Server Windows + 4D Backup Windows		4D Backup Windows

各マシン上には、同一のプロトコルとネットワークコンポーネントをインストールしなければなりません。4<sup>th</sup> Dimension環境内への4D Backupのインストール方法に関する詳細は、「4D Backupインストールガイド」を参照してください。

操作中のデータベースはログファイルを持っている必要があることを覚えておいてください。なぜなら、このログファイルがミラーデータベースを更新するファイルだからです。ユーザは、操作中のデータベースがミラーデータベースに接続されようとする際にネットワークコンポーネントを選択します。

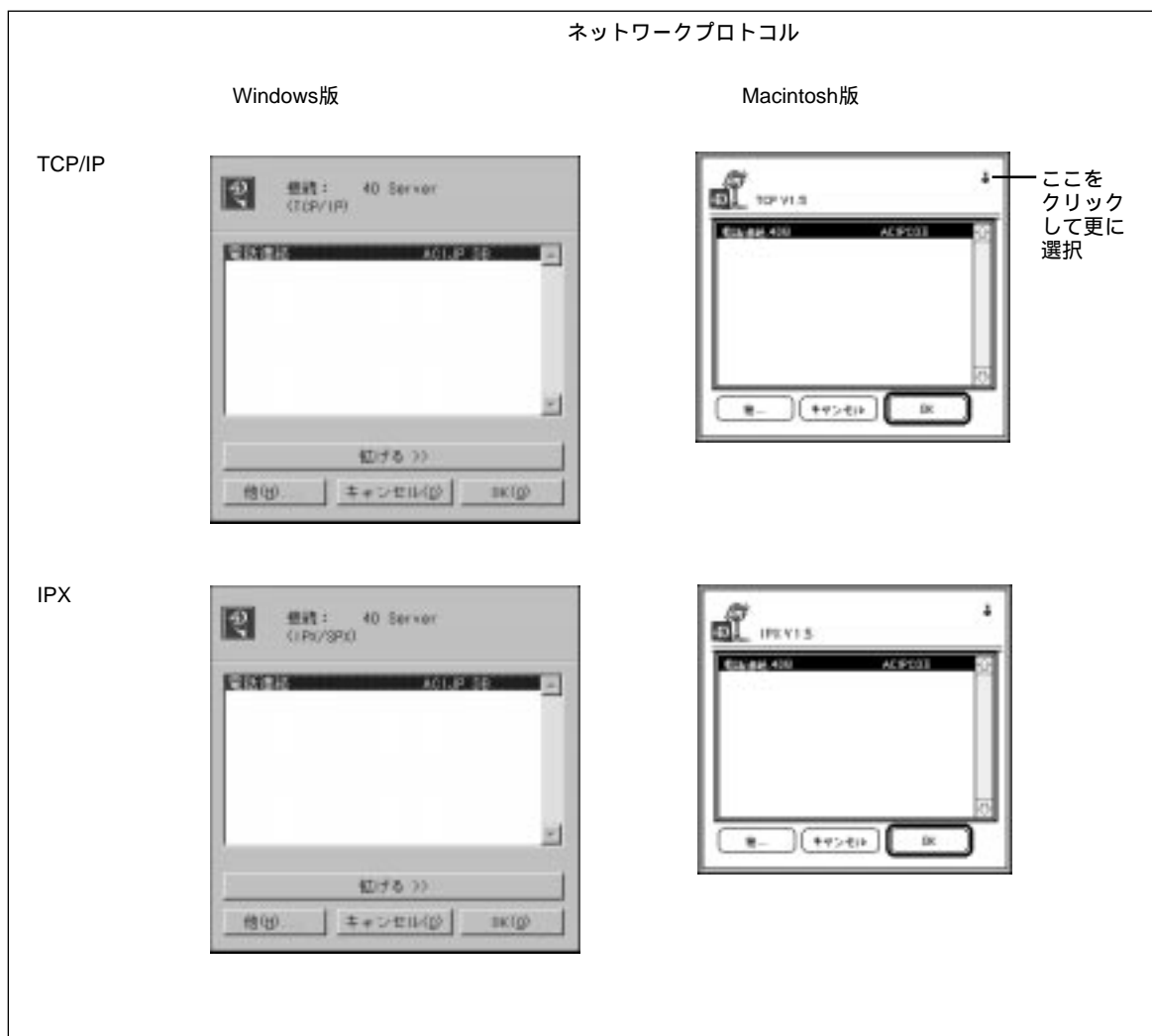
### 「ゾーン」メニューの削除

ネットワークコンポーネントの使用プログラムの結果として、ゾーンはADSPの使用を除くその他に関係しているので、「ミラー更新」ウインドウ内の「ゾーン」メニューは削除されました。（もし、ADSPを使用したい場合は、「ネットワークコンポーネント」ダイアログボックスから選択することができます。）

そのため、AppleTalkゾーンの管理を処理する4D Backupルーチンは、もはや使用しません。詳細は、この追加修正情報の「ランゲージ」の節を参照してください。

## ミラーマシンを含むネットワークコンポーネントの選択

1. 4D Clientアプリケーションアイコンをダブルクリックして、データベースを開く。  
インストールされたネットワークコンポーネントおよびそのネットワークに対するシステム定義により、次のようなダイアログボックスが現れます。



## ネットワークプロトコル

Windows版



ADSP  
ゾーンなし

Macintosh版



ADSP  
複数ゾーン



2. 「他...」ボタンは複数のネットワークコンポーネントがインストールされている場合にのみ利用できます。別のネットワークコンポーネントを選択するには、「他...」ボタンをクリックする。  
利用できるネットワークコンポーネントの名前を表示したダイアログボックスが現れます。





Windows版



Macintosh版

3. 使用したいネットワークコンポーネントを選択し、「選択」ボタンをクリックする。

## 新機能

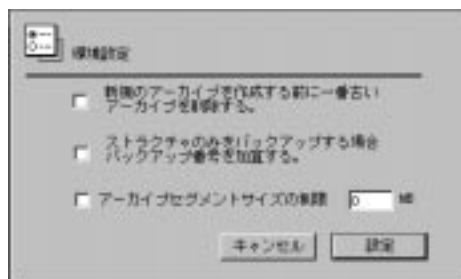
---

この節では、4D Backupに新たに追加された機能について説明します。

### 1.5 「環境設定」ダイアログボックス

- 1.2 バージョン1.2の4D Backupでバックアップオプションを設定することができる「環境設定」ダイアログボックスについて紹介しました。このダイアログボックスにバージョン1.5から新しくオプションが追加されました。

「環境設定」ダイアログボックスを表示するには、「フルバックアップ」ウインドウが表示されている際に現れる「ファイル」メニューから「環境設定...」を選択します。



このダイアログボックスには、3つのオプションがあります。

**1.2 「新規のアーカイブを作成する前に一番古いバックアップを削除する。」**

このオプションは、新規バックアップが作成される前にバックアップボリューム上にある一番古いバックアップを削除します。

ここでは、利用可能なディスクスペースの表示に注意してください。利用可能なディスクスペースは、古くなったアーカイブを削除することにより空いたスペースを含んでいます。

このオプションは、古くなったバックアップと処理中のバックアップの両方を保管するだけの必要な空きスペースを持っていないバックアップボリューム上にデータベースをバックアップしたい場合に特に有効です。

しかし、処理中のバックアップを中止すると、古いバックアップはすでに削除されてしまっているため、その古いバックアップにアクセスすることができなくなります。また、処理中のバックアップも最後までバックアップできなかったため、そのバックアップにもアクセスできません。ただし、そのデータベースはバックアップ中に修正されないの、たとえ有効なバックアップをすでに持っていないとしても、そのデータファイルは完全な状態を保証されます。これは、たとえ自動車に付いている4つのタイヤが正常な状態であっても、予備の（スペア）タイヤを持っている場合の状況に似ています。不完全な状態のアーカイブを削除してシステムを再起動すれば、新規バックアップをすぐに開始することができます。

**1.2 「ストラクチャのみをバックアップする場合、バックアップ番号を加算する。」**

バックアップのセット番号はデータベースバックアップに対応しますが、ストラクチャをバックアップしただけでは番号は加算されません。もし、定期的にデータのバックアップなしにデータベースのストラクチャだけをバックアップすると、バックアップ番号は加算されずに、前のバックアップが置き換えられます。

しかし、このオプションを選択しておく、バックアップ番号はストラクチャだけがバックアップされた時でも加算されるので、ユーザが必要とする数のバックアップセットを保存することができます。

このオプションは、データベースの開発段階中に特に有効です。この場合、データファイルのバックアップを行うことなく、検査情報のみを含んだデータベースのストラクチャを頻繁にバックアップできます。15分おきにストラクチャファイルのバックアップを保存することもできます。これにより、プロシージャが修正されていない時点、またはレイアウトが削除されていない時点の前のストラクチャに簡単に戻ることができます。

## 1.5 「アーカイブセグメントサイズの制限」

このオプションは、4D Backupによって生成されるアーカイブセグメントの最大サイズを指定することができます。これは、数百メガバイトのバックアップファイルを生成するとても大きなデータベースのバックアップを容易にします。これにより、バックアップボリューム上の利用可能なスペースを正しく分割することができます。

注：バックアップの分割に関する詳細は、後述の“複数ボリュームのバックアップ”の節を参照してください。

アーカイブ（バックアップ）セグメントの最大サイズを設定するには、次のように行います：

1. 「環境設定」ダイアログボックス内の「アーカイブセグメントサイズの制限」チェックボックスを選択する。
2. テキストボックスに値を入力する。  
値はメガバイト (MB) を表します。
3. 「設定」ボタンをクリックする。

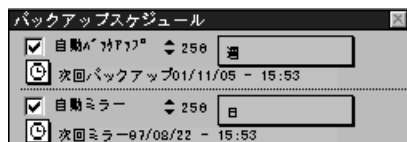
バックアップ中に指定したセグメントの最大サイズに達すると、4D Backupはそのセグメントを閉じて、次のセグメント保存先を選択するための「ファイル保存」ダイアログボックスを表示します。4D Backupは、各アーカイブセグメントの保存先をバックアッププロジェクトに格納し、同じ場所が次のバックアップ用に使用されます。

注：ディスク上のアーカイブセグメントの保存先を変更するには、Macintosh上ではoptionキー、Windows上ではAltキーを押しながら「バックアップ」ボタンをクリックします。すると、「ファイル保存」ダイアログボックスが再表示されます。

## バックアップスケジューラーの使用（4D Serverのみ）

たとえ、クライアントが4D Serverに接続されていない場合でも、4D Serverでオープンされたデータベースのバックアップを自動的に行うことができます。

4D Backupを4D Serverにインストールすると、次のようなウィンドウがサーバマシン上に現れます。



注：4D Serverウィンドウの後ろに隠れている場合があります。

ウィンドウの上部エリアでバックアップを行う日時を指定し、同様に下部エリアでミラー更新の日時を指定することができます。

バックアップを行なう前に、4D Backupのインタフェースを使って1番目のバックアップを実行することにより手動でバックアッププロジェクトを作成します。また、プロジェクトには、Macintosh上では“バックアッププロジェクト”、Windows上では“Backup.4BP”という名前を付けてください。この名前は次回のバックアップで使用されるプロジェクトのデフォルト名になります。

### 更新頻度

各バックアップのモードでは、チェックボックスでバックアップを自動的に行うかどうかを指定し、番号とポップアップメニューでバックアップの頻度を管理することができます。

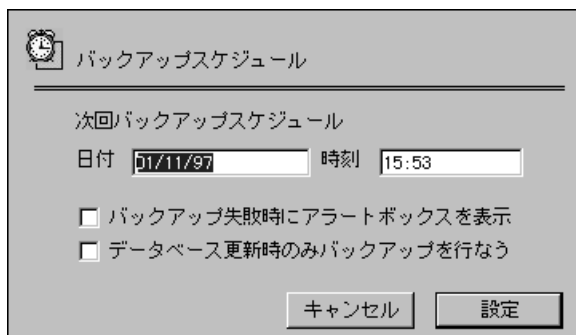
このバックアップスケジューラーは、下記の2つの機能を持っています。

次回のバックアップ日時を知らせる。

バックアップ処理が正しく実行されなかった場合にエラーを知らせる。

- 🕒 次回のバックアップ時間は、バックアップスケジュールを設定する際の時間から計算されます。バックアップの開始時間を設定する場合は、時計アイコンをクリックします。

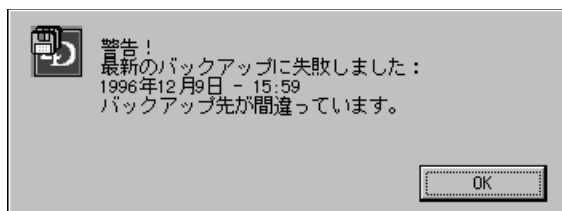
次のようなダイアログが表示されます。



次のバックアップの日付と時間を入力して、「設定」ボタンをクリックします。次のバックアップは要求された日付と時間に開始されます。

#### バックアップが失敗した場合

「バックアップ失敗時にアラートボックスを表示」チェックボックスを選択すると、バックアップが成功しなかった場合、次のようなアラートボックスが現れます：



データベースの管理者がこのアラートボックス内の「OK」ボタンをクリックするまで、新規にバックアップを開始してはいけません。

#### データベースが修正された場合のみバックアップを行う

データベースが永続的に起動している場合は、「データベース更新時のみバックアップを行なう」チェックボックスを選択する必要があります。このオプションにより、修正が何も行われていない週末等の日にまったく同一のバックアップをいくつも作成してしまわないようにすることができます。

同様に、ミラーデータベースを更新することができます。例えば、ミラー更新を2時間毎に行い、週末の夜に自動的に中止することができます。ミラー更新に関する詳細は、第5章の「論理ミラーの使用」を参照してください。

## 1.2 ログファイルの書き出し

“ログ復元”モジュールの「ファイル」メニューにある「書き出し」メニューアイテムを使って、スプレッドシートやワープロ機能を持つアプリケーションのようなソフトウェアおよび4<sup>th</sup> Dimensionによって読み込まれたフォーム上に、“ログ復元”モジュールによってオープンされたログファイルの内容を書き出すことができます。4D Backup1.1.1で提供されている例題「ログ管理」データベースのストラクチャもこのファイルを読み込むことができます。また、それを分析するプロシージャを4<sup>th</sup> Dimensionで作成することもできます。

ログファイルを書き出すには、「ファイル」メニューから「書き出し」を選択します。

「ファイル選択」ダイアログボックスが現れ、作成したいファイル名を指定することができます（デフォルトでは、指定された名前はログファイル名に“.txt”が付きます）。

ダイアログボックスを有効にすると、データが書き出されます。サーモメータが処理の進行状況を知らせします。

書き出されたファイルは、次のような項目を含んでいます。

データ処理、ファイル番号、レコード番号、プロセス番号、ユーザ名、日付、時間、1番目から4番目のフィールドの内容。

カラムはタブで区切られ、行はキャリッジリターンによって区切られています。

## 1.2 「確認」チェックボックス

「復元」ウインドウ内の「確認」チェックボックスを選択することにより、ダメージを受けたハードディスク上にあるアーカイブの復元を回避することができます。「バックアップの検査」オプションと同じように、このオプションは書き出されたデータを読み込み、そのデータがオリジナルデータと一致するかどうかを検査します。このオプションは、復元処理を遅くさせてしまいますが、作業しているハードディスク上で行われている処理を保証します。

## その他の情報

---

### エラー221

このエラーは、実際に公開されていて4<sup>th</sup> Dimensionで使用されているログファイルを開こうとしたときに現われます。このエラーはマニュアルでは記述されていません。

### 4Dの内部キャッシュのフラッシング

セキュリティ上の理由から、4<sup>th</sup> Dimensionの内部キャッシュのフラッシュは各バックアップの前に行なわれます。

一方、ミラー更新を行なう時には、このフラッシュは行ないません（これもマニュアルには記述されていません）。

### バックアップログファイルの番号付け

2つのバックアップ間のログファイルを保存する場合（例えば、ログファイルが大きすぎてボリュームに入りきらない場合）、次のように番号が振られます。

これらのアーカイブは、4D Backupによって自動的に削除されません。従って、手動でそれらを削除する必要があります。

Macintosh上

ログファイルバックアップは2つの接尾語付きで名付けられます：

ログファイル[xxx to yyy -nnn]

xxxとyyyは、そのログファイルが組み込まれたバックアップ間のバックアップ番号です。

nnnは、ログファイルに対して行なわれたバックアップの順序に振られた文字です。

例えば、24回目と25回目のフルバックアップの間で3つのログファイルのバックアップを行うと、次のような名前が付けられます：

“住所録.data.log[24 to 25] - a”、“住所録.data.log[24 to 25] - b” および

“住所録.data.log[24 to 25] - c”

24回目と25回目のフルバックアップの間で行われた処理を復元するには、この順番でログファイルを統合しなければなりません。

## Windows上

ログファイルバックアップの名前は、バックアップ番号を表している 3バイトの接尾語と（データベースのバックアップ間で行われた）異なるログファイルのバックアップの中でログファイルのランクを示す文字、およびその後ろに拡張子 “.4BL ” を含んでいます。ファイル名は 8バイトまでという制約があるため、そのログファイル名は（母音の削除や場合によっては他の文字も）切り取られる場合があります。例えば、データベースの 24 回目のバックアップの 2番目に保存される “ MyHistor.4DL ” という名前のログファイルは “ Mhs024-b.4BL ” と名付けられます。

## 「デモンストレーション」モード

シングルユーザバージョン（4<sup>th</sup> Dimension）用の適切なシリアル番号を入力していない場合や4D Serverに適切なライセンス番号を入力していない場合でも、レコード数が200件に満たないデータベースであれば、4D Backupを「デモンストレーション」モードで使用することができます。この制限は、4<sup>th</sup> Dimensionや4D Server用のデモバージョンと同じです。このデモバージョンによって開発者は機能的なバックアップシステムを持つデータベースの評価版を得ることができます。

「デモンストレーション」モードでは、すべての4D Backup機能にアクセスすることができます。そして、「デモンストレーション」モードであることを知らせるアラートボックスが現われます。

データベースが200件以上のレコードを持っている場合、4D Backupを「デモンストレーション」モードで使用することはできなくなり、4D Backupの機能は使用できません。しかし、データベースが以前200件以上のレコードを持っていて、現在200件未満のレコードになった場合は、4D Toolsを使ってそのデータファイルを圧縮することにより「デモンストレーション」モードでアクセスできるようになります。



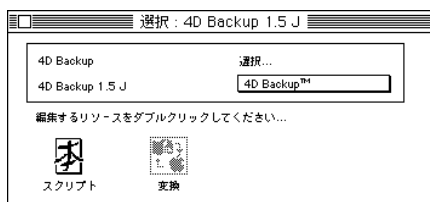
## 4D BackupとCustomizer Plus

4<sup>th</sup> Dimensionおよび4D Serverの両方に含まれているCustomizer Plusユーティリティを使って、4D Backupのいくつかの機能をカスタマイズすることができます。

ユーザが設定できるオプションは、スタンドアロンの4D Backupアプリケーションにのみ有効です。4D Backupが4<sup>th</sup> Dimensionに統合されると、その4<sup>th</sup> Dimension環境のパラメータが使用されます。その結果、Customizer Plusはスタンドアロンの4D Backup用にパラメータを設定することができます。“Backup.4DX”や“Restore.4DX”にパラメータを設定することはできません。

Customizer Plusを使って4D Backupモジュールを開くと、次のようなダイアログボックスが現れます：

Macintosh



Windows

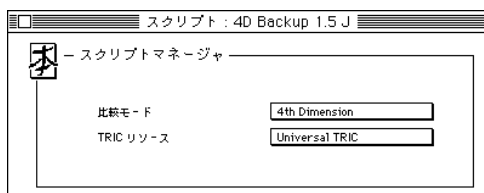


パラメータのオプションウィンドウを表示するには、リソースアイコン上をダブルクリックします。

## パラメータオプション

### スクリプトマネージャ

このウィンドウは、4D Backupで使用される異なるシステムの区別方法およびソート方法を定義することができます。



比較モード：検索やソートを実行するために使用される方法を設定することができます。

TRICリソース：使用するTRICリソースを選択することができます。TRICリソースは、4<sup>th</sup> Dimensionや4D Serverで実行されるソートや検索方法を定義します。

もし、4<sup>th</sup> Dimensionまたは4D Serverの TRICリソースを修正すると、同じTRICの値を4D Backupに割り当てるためにCustomizer Plusを使用します。

注：このダイアログボックス内で選択したパラメータは、ログファイルの統合および4D Backupのミラー更新用に4<sup>th</sup> Dimension内に定義されたものと同一のものです。

これらのオプションの機能は、4<sup>th</sup> Dimensionの場合と全く同一のものです。これに関する詳細は、Macintosh版ではオンラインドキュメントの「ユーティリティガイド」、Windows版ではオンラインヘルプの「Custo.hlp」を参照してください。

#### ADSP (MacOSのみ)

このオプションは、ADSPネットワークが使用されているデータベースマシンとミラーマシン間の通信パラメータを設定することができます。

このオプションを使用するには、Customizer Plusのメインウインドウから「4<sup>th</sup> Dimension」を選択します。

使用可能なADSPリソースのウインドウが現れます。

ADSPリソースアイコン上をダブルクリックすると、次のような「ADSP パラメータ」ダイアログボックスが現れます：

このダイアログボックス内のオプションは、4D Serverと4D Client間の交信用に定義したオプションと同一のものです。

#### 環境設定 (Windowsのみ)

このウインドウは、4D Backupで使用するメモリーを最適化することができます。

パラメータの設定は、4D Backupを閉じると適用されます。

これらのオプションは、4<sup>th</sup> Dimension用に設定されるオプションと全く同一のものです。これに関する詳細は、Macintosh版では「ユーティリティガイド」オンラインドキュメント、Windows版では「Custo.hlp」オンラインヘルプを参照してください。

## ランゲージ

---

この節では、4D Backupルーチンに新しく追加された機能および変更された機能について説明します。

### 1.2 バージョン1.5で廃止されたコマンド

バージョン1.5の4D Backupから通信用に標準の4Dネットワークコンポーネントを使用します。(ネットワークコンポーネントに関する詳細は、第5章の“論理ミラーの使用”および「4D Backupインストールガイド」を参照してください。)

それで、(AppleTalkゾーンの使用を処理するだけの)次の4つのルーチンはやも何も行いません。これらのルーチンは、バージョン1.5以前の4D Backupとの互換性を保証するためにバージョン1.5では単に変換されるだけです。これらは次のバージョンの4D Backupから削除される予定です。

BK GET MIRROR LIST

BK Set mirror

BK SET ZONE

BK GET ZONE LIST

---

BK GET MIRROR LIST (ミラー配列)

BK Set mirror (データベース名; オーナー名; マシン名)      整数

BK SET ZONE (ゾーン名)

BK GET ZONE LIST (ゾーン配列)

### 1.2 修正されたシンタックス

BK SET OPTIONSコマンドとBK GET OPTIONSコマンドに新しく2つの引数が追加されました。これらの引数は、この追加修正情報の「環境設定」ダイアログボックスの節で説明されているオプションにそれぞれ対応しています。このダイアログボックスの最初の2つのオプションは、4D Backupルーチンからしかアクセスできません。これらのオプションとは、「新規のアーカイブを作成する前に一番古いバックアップを削除する。」と「ストラクチャのみをバックアップする場合、バックアップ番号を加算する。」の2つです。

## BK SET OPTIONS

---

BK SET OPTIONS (データ ; ストラクチャ ; ログ ; 検査 ; 消去 ; セット数 ; 削除 ; 加算)

引数	タイプ	説明
データ	整数型の変数	データファイルのバックアップ
ストラクチャ	整数型の変数	ストラクチャファイルのバックアップ
ログ	整数型の変数	ログファイルのバックアップ
検査	整数型の変数	書き込みの時間におけるデータの検査
消去	整数型の変数	バックアップ前のディスクの消去
セット数	整数型の変数	バックアップのセット数
削除	整数型の変数	一番古いアーカイブ (バックアップ) の削除
加算	整数型の変数	バックアップセット番号の加算

このコマンドは、カレントバックアップのオプションを設定します。

引数「データ」、「ストラクチャ」、「ログ」の各変数は、下記のコードを基にしてバックアップの対象として選択されたファイルであるかどうかを示します。

変数が1の場合、そのファイルはバックアップの対象になります。

変数が0の場合、そのファイルはバックアップの対象になりません。

変数が-1の場合、前の設定をそのまま残します。

同様に、引数「検査」、「消去」は次のように設定されます。

変数が1の場合、そのオプションは選択されます。

変数が0の場合、そのオプションは選択されません。

変数が-1の場合、前の設定をそのまま残します。

これらのオプションは、「フルバックアップ」ウインドウ内にあるチェックボックスと同じものです。引数「消去」は、フロッピーディスク以外の取り外し可能なディスクでのバックアップにのみ影響することに注意してください。デフォルトでは、4D Backupはフロッピーディスクを消去し、名前を変更します。一方、4D Backupは取り外し不可のディスクを消去しません。特定のボリュームが取り外し可能かどうかを判断するには、BK GET VOLUME INFOコマンドを使用してください。

引数「セット数」は、保存するためのバックアップのセット数を設定します。その値はどの番号も1から100の間です。マイナスの値を指定した場合は、前の設定が使用されません。

引数「セット数」はプロジェクトで定義されますが、データベースのデータファイル内に格納されることに注意してください。複数のプロジェクトを使用することにより、不注意でアーカイブを消去してしまわないようにします。「セット数」へ設定される値は、データベースのすべてのプロジェクトに対して適用されます。

引数「削除」が1の場合、一番古いアーカイブは新規バックアップを開始する前に削除されます。「削除」が0の場合、一番古いアーカイブはが新規バックアップの終了後に削除されます。「削除」が-1の場合、前回の値はそのままです。

引数「加算」が1の場合、バックアップ番号はストラクチャだけがバックアップされる場合にのみ加算されます。「加算」が0の場合、バックアップ番号は加算されません。「加算」が-1の場合、前回の値はそのままです。

参照 : BK GET OPTIONS

## BK GET OPTIONS

---

BK GET OPTIONS (データ ; ストラクチャ ; ログ ; 検査 ; 消去 ; セット数 ; 削除 ; 加算)

引数	タイプ	説明
データ	整数型の変数	データファイルのバックアップ
ストラクチャ	整数型の変数	ストラクチャファイルのバックアップ
ログ	整数型の変数	ログファイルのバックアップ
検査	整数型の変数	書き込み時間におけるデータの検査
消去	整数型の変数	バックアップ前のディスクの消去
セット数	整数型の変数	バックアップのセット数
削除	整数型の変数	一番古いアーカイブ (バックアップ) の削除
加算	整数型の変数	バックアップセット番号の加算

このコマンドは、カレントバックアップのオプションを返します。

引数「データ」、「ストラクチャ」、「ログ」の各変数は、下記のコードを基にしてバックアップの対象として選択されたファイルと一致しているかどうかを示します。

変数が1の場合、そのファイルはバックアップされます。

変数が0の場合、そのファイルはバックアップされません。

引数「検査」、「消去」の各変数は、下記のコードを基にして、選択されたオプションと一致するかどうかを示します。

変数が1の場合、そのオプションは選択されています。

変数が0の場合、そのオプションは選択されていません。

これらのオプションは、「フルバックアップ」ウインドウ内にあるチェックボックスと同じものです。引数「消去」は、フロッピーディスク以外の取り外し可能なディスクでのバックアップにのみ影響することに注意してください。4D Backupはフロッピーディスクを消去し系統的に名前を変更します。一方、4D Backupは取り外し不可のハードディスクの消去は行いません。

「セット数」変数は、指定したセット数を返します。デフォルトのセット数は3です。この数は、プロシージャや「フルバックアップ」ウインドウ上で変更することができます。

引数「セット数」は読み出され、データベースのデータファイルに格納されることに注意して下さい。複数のプロジェクトを使用することによって、不注意でアーカイブを消去してしまわないようにします。「セット数」変数によって返される値は、データベースのすべてのプロジェクトに対して同じです。

引数「削除」が1の場合、一番古いアーカイブは新規バックアップを開始する前に削除されます。「削除」が0の場合、一番古いアーカイブはが新規バックアップの終了後に削除されます。

引数「加算」が1の場合、バックアップ番号はストラクチャだけがバックアップされる場合にのみ加算されます。「加算」が0の場合、バックアップ番号は加算されません。

参照 : BK SET OPTIONS